

実習科目名（対象学科） 医療薬学基礎実習（薬学科）

配当学年（セメスター） 4年（8）

単位数 4（必修）

担当分野：臨床薬学、
がん化学療法薬学、
生活習慣病治療薬学、
医療薬学教育研究センター

[目的と概要]

医療や健康保険事業に参画し次世代を切り開いていけるようになるために、医療薬学病院実習・医療薬学薬局実習に先立って、大学内で、調剤および製剤、服薬指導など薬剤師職務の基礎となる知識・技能・態度を修得する。

[学習の一般目標・到達目標]

《事前学習を始めるにあたって》事前学習に積極的に取り組むために、病院と薬局での薬剤師業務の概要と社会的使命を理解する。

◎薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。◎チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。《処方箋と調剤》医療チームの一員として調剤を正確に実施できるようになるために、処方せん授受から服薬指導までの流れに関連する基本的知識、技能、態度を修得する。

◎患者に適した剤形を選択できる。◎患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。◎患者の特性に適した用量を計算できる。◎病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。◎代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。

《疑義照会》処方せん上の問題点が指摘できるようになるために、用法・用量、禁忌、相互作用などを含む調剤上注意すべき事項に関する基本的知識、技能、態度を修得する。

◎代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。◎特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。◎代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。◎代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。◎代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。◎疑義照会をシミュレートする。

《医薬品管理》 病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射剤などの取扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識と技能を修得する。

◎代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。◎毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。◎麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。◎血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。◎生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。◎毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。◎血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。◎代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。◎生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。◎麻薬の取扱いをシミュレートできる。◎薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。◎代表的な院内製剤を調製できる。◎無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。◎抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。◎注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。◎代表的な配合変化を検出できる。◎代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。◎体内電解質の過不足を判断して補正できる。◎代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。◎消毒薬調製時の注意点を説明できる。

《リスクマネジメント》 薬剤師業務が人命にかかわる仕事であることを認識し、患者が被る危険を回避できるようになるために、医薬品の副作用、調剤上の危険因子とその対策、院内感染などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。

◎代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。◎基本的なバイタルサインを評価できる。◎誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。◎リスクを回避するための具体策を提案する。◎事故が起こった場合の対処方法について提案する。◎心肺蘇生の手順を具体的に説明できる。◎心肺蘇生に用いる薬剤と使用方法について説明できる。◎AEDを用いて心肺蘇生ができる。

《服薬指導と患者情報》 患者の安全確保とQOL向上に貢献できるようになるために、服薬指導などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。

◎インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。◎適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。◎医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。◎患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列挙できる。◎代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。◎共感的態度で患者インタビューを行う。◎患者背景に配慮した服薬指導ができる。◎代表的な症例に

についての服薬指導の内容を適切に記録できる。◎症例の概要を端的に書く。◎症例の概要を端的に発表できる。

《事前学習のまとめ》病院実務実習、薬局実務実習に先立って大学内で行った事前学習の効果を高めるために、調剤および服薬指導などの薬剤師職務を総合的に実習する。

◎代表的な処方せん例の鑑査を行うことができる。◎疑義照会をシミュレートする。

◎処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。◎処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。◎調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。

◎患者背景に配慮した服薬指導ができる。

[内 容]

原則として薬学教育モデル・コアカリキュラム (<http://www.pharm.or.jp/kyoiku/md1.html>) の学習方略に準じて行う。

[成績評価方法]

出席を重視する（出席点を全体の6割とする）。

その他に実習態度、レポート、実習ノート、ミニ OSCE 等の結果を加味し、総合的に評価する。

[参考書]

日本薬剤師会編、第12改訂調剤指針 増補版、薬事日報社（2008）。

日本薬学会編、スタンダード薬学シリーズ10 実務実習事前学習、東京化学同人（2006）

東海地区病院・薬局実務実習調整機構監修、薬学生のための実務実習事前学習テキスト
実技編、じほう

薬学教育センター編、病院・薬局実務実習 事前学習テキスト-実務実習モデル・コアカリキュラム対応、評言社

上村直樹、下平秀夫、ビジュアル薬剤師実務シリーズ1 薬局調剤の基本、羊土社（2006）。